

「想いの実現に向けた ・湯沢砂防事務所と地域住民

「計画・検証ワークショップ の分担と取り組み」

国 省
(現所属 *1 :
株

整備局湯沢 防事務所 森下淳*1 邊正一*2 中嶋邦博
地方整備局 川部、*2 : 同局信濃 下流河川事務所)
場所 杉本 志 澤樹征司 稲葉修一 ○高橋裕美
村上 人 岸根泰三

1. ワークショップの目的

事務所では、将来的に実現する目的を実施している。
位置する浅貝地区は、河川敷等であり、溪流保全工事にあたっては住民や観光客年間を通じて、親水性の確保や豊かな自然・保全配慮を。一方で、整備後は、日常的な維持が必要となる。

事業上の課題について、この代表と話していく中で、具体的な利用方法と計画とで分なすり合わせがなされていないこと、た、昭和4年代前半に整備された本事業区間下流部位置する路工に関して利用上の配慮が不足しているという不満が、貝地とともに「づくり整備を目指し、協働で貝川溪流に配慮・維持方針を「ワークショップ」した。

2. ワークショップの概要

ワークショップは、計画した。事自治会の役員等と、事務所、コンサルト間で意見行って実、今後、う若者代の女性など、多年齢層が参加する意見交換を行った。

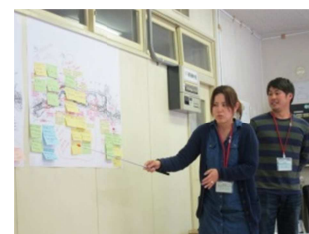
「1 ワークショップ」開催内容

回数	1)	テーマ	参加人数
第1回 (6/23)	・合同現地見学会 共有「想い」		23名 (40名)
第2回 (7/1)	について	流保全の利用	14名 (31名)
第3回 (7/5)	構想(案)	配慮し、の配置 ために維持管	18名 (31名)
第4回 (7/6)	流づく ップのまとめ	クショ	20名 (38名)

※ () 内は事務所、湯沢町等を含む人数。



ワークショップ



発表状況

図1 ワークショップの様子

3. 計画・検証

3.1 ワークショップで

通常のワークショップ、事業設計の段階で実施する。今回のワークショップは、設計の段階で実施する。その特徴は、意見が設計に反映できるかどうか、に判断しなければならず、意見がどこまで反映されたかが課題であった。このワークショップでは、はじめに前提条件を設定し、意見聴取し、意見について、行政側で、「対応可能なこと」、「困難なこと」の具体的な形で反映する。また、制度・技術面、事業区間外で砂防事業の困難な点は、意見否定せずできない理由を丁寧に説明した。砂防事業で実現できないことは「地域の取り組み」に応ずる。ワークショップを進めた。

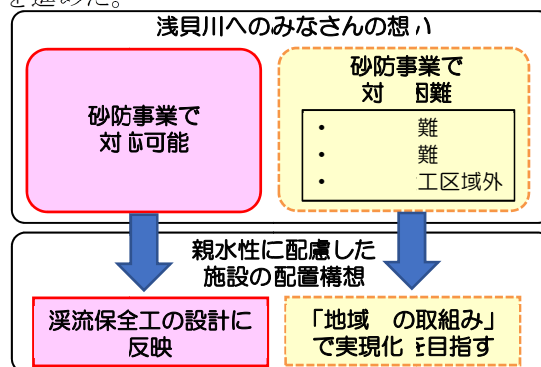


図2 想をまとめた考え方

3.2 整備計画

「は、「美しい沿いを歩きたい」、有の場合の「思い」を反映する内容として「実現を目指す」内容に引きつけて課題を整理した。

例えば、「桜並木にしたい」としては、各を確保した上で用地内に場所を植栽用地として確保することとし、一方で及び樹管理は地域で行うよう整備内容と役割分担の合意を行った。また、計画において「正した整備イメージをCGで作成し、イメージを“見”てイメージとの齟齬を解消し、ワークショップの結果として、水性に施設の配置計画」を図4に示す。

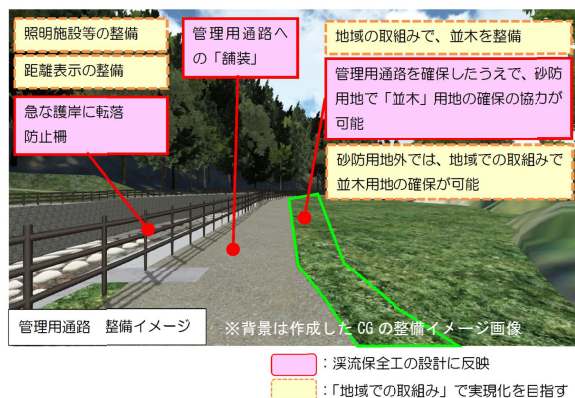


図3 例

4. 管理計画

既往事では、砂防機能以外の利用管理がことが課された。浅貝川は、地域住民が流側の整備済み区間に引いた問題を持つ管理に関心がある。

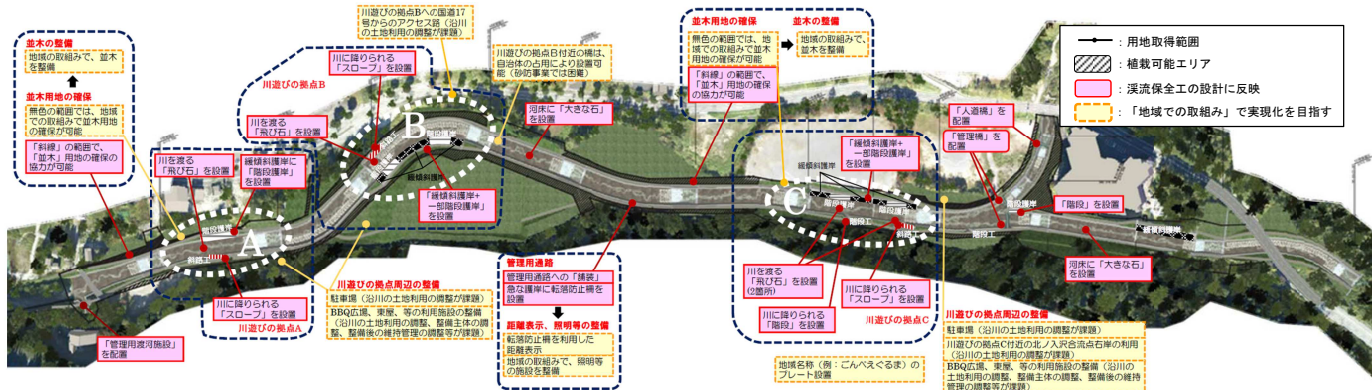


図4

手がった。そこで、ショーのファシリテーターは、準備内容の検討段階で、利用通路やスロープの活用、落ち葉等の必要設備護岸はポイントとする等、参加者が維持管理を意識して、自分たちで行う維持イメージを膨らませられるよう支援を行った。

表2に示すように、針をとりまとめ、地域主体で浅貝川溪の工のや維持管理等に関する委員会が立ち上げられた。

表2 計画の針

・ 町内会で、の	立し、維持管理の
・ 現在、浅	る草刈、清掃等の
維持管理	年齢層に応じて溪
・ 浅貝地区	新潟県、湯沢町と
のコミュニケーション	する。

5. 今後の展望

行った取り組みでは、行政が砂防事業において出来ることと、いこ見準を具体的に説明解を得た上で、民と行政が対話を重ね、出来る限り住民の想いに沿った修計を行ったことから、住民の信頼につながると考えられる。また、計画面上にされ、実現がイメージできたことが、参加者の参りについていたと考えられる。業者が住民、制牛を丁寧に説明することにより、詳細に入る直前のワークショップがすると考えられる。

今後とも、地元委湯沢などのコミュニケーションを継続し、主体で発展する地域づくりに資する事業を進めていきたい。

た 設 配置計画